

安全データシート

作成 2008 年 06 月 10 日
改定 2019 年 11 月 12 日

1. 製品及び会社情報

製品名 : GB3 Buffer
 製品コード : 315-06661
 会社名 : 株式会社ニッポンジーン
 住所 : 富山県富山市問屋町 2-7-18
 電話番号 : 076-451-6548
 FAX 番号 : 076-451-6547

2. 危険有害性の要約

GB3 Buffer について記載

GHS 分類 : 急性毒性（経口） : 区分 4
 皮膚腐食性/刺激性 : 区分 2
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分 2A

GHS ラベル要素

注意喚起語



警告

危険有害性情報 : H302 飲み込むと有害
 H315 皮膚刺激
 H319 強い眼刺激

注意書き 【安全対策】 P264 取扱い後はよく手を洗うこと。
 P270 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 P280 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】 P330 口をすすぐこと。
 P301+P312 飲み込んだ場合：医師に連絡すること。
 P302+P352 皮膚に付いた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
 P332+P313 皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
 P337+P313 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 P362+P364 汚染された衣服を脱ぐこと。再利用する場合には、洗濯すること。
 P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。

【保管】 P405 施錠して保管すること。

【廃棄】 P501 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外又は分類できない。

3. 組成、成分情報

GB3 Buffer

化学物質・混合物 : 混合物

化学名又は一般名	濃度	化学特性(化学式)	CAS 番号	危険有害成分
Trade secret	< 85%(w/v)	非開示	非開示	非開示

4. 応急措置

吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹸で洗い流す。炎症を生じた時は医師の診断、手当てを受けること。
 汚染された衣服を脱ぎ、再利用する場合には、洗濯すること。

眼に入った場合	: 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。気分が悪い時は、医師に連絡すること。
予想される急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	: データなし

5. 火災時の措置

消火剤	: 粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火剤、二酸化炭素、砂、霧状水
使ってはならない消火剤	: 棒状注水
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有害なガスを発生するため、消火の際には煙を吸込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用し消火する。消火活動は、可能な限り風上から行う。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
消火を行なう者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 作業の際には適切な保護具を着用する。こぼれた場所は滑りやすい為に注意する。関係者以外立ち入りを禁止する。 密閉された場所に立ち入る前に換気する。
環境に対する注意事項	: 環境中に放出してはならない。
回収、中和	: 漏出した液は、ウエス、雑巾で出来るだけ回収し、こぼしたところを完全に拭きとる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱注意事項	: 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。 漏れ、溢れ、飛散などしないようにする。使用後は容器を密閉する。 適切な保護具を着用する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
接触回避	: データなし
保管	
適切な保管条件	: 室温で保管する。
技術的対策	: 特になし
混触禁止物質	: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
安全な容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度	ACGIH	: 設定されていない
	日本産業衛生学会	: 設定されていない
設備対策		: 蒸気やミストが発生する場合は、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。
保護具		
呼吸器の保護具		: 保護マスク
手の保護具		: 適切な保護手袋
目の保護具		: 適切な保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具		: 保護衣、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

外観（物理的状态、形状、色など）	: 無色澄明な液体
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし
燃焼又は爆発範囲(上限・下限)	: データなし
蒸気圧	: データなし
比重(相対密度)	: データなし
溶解度	: 水と混合する
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 日光、熱
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

GB3 Buffer について記載

急性毒性	: 経口 ラット LD ₅₀ < 2000mg/kg	区分 4
	: 経皮 ウサギ LD ₅₀ > 2000mg/kg	区分外
	: 吸入 ラット LC ₅₀ > 5mg/L	区分外
皮膚腐食性・刺激性	: ウサギ 「強い皮膚刺激」	区分 2
眼に対する重篤な損傷・刺激性	: ウサギ 「眼刺激」	区分 2A
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: データなし	
生殖細胞変異原性	: データなし	
発がん性	: データなし	
生殖毒性	: データなし	
特定標的臓器毒性・単回ばく露	: データなし	
特定標的臓器毒性・反復ばく露	: データなし	
吸引性呼吸器有害性	: データなし	

12. 環境影響情報

GB3 Buffer について記載

生態毒性	: データなし
残留性・分解性	: データなし
生体蓄積性	: データなし
土壌中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: データなし
その他の有害影響	: データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。
-------	---

汚染容器及び包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号	: 該当なし	
海洋汚染物質	: 非該当	
国際規制		
陸上規制情報	: ADR/RID	規制されていない
海上規制情報	: IMO	規制されていない
航空規制情報	: ICAO/IATA	規制されていない
国内規制		
陸上規制情報	: 規制なし	
海上規制情報	: 非危険物	
航空規制情報	: 非危険物	
特別な安全対策	: 運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。	

15. 適用法令

GB3 Buffer について記載	
消防法	: 非該当
毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 危険有害化学物質等 (規則第 24 条 14) 特定危険有害化学物質等 (規則第 24 条 15)
化学物質管理促進法(化管法)	: 非該当

16. その他の情報

引用	NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) http://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/systemTop 原料試薬供給先から提供された SDS 等
----	---

* 本データシートは試薬に関する一般的な取扱いを主に記載しており、試薬以外としての取扱い及び大量取扱いに関しては考慮されていない場合があります。また、現在での最新の情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。

* 新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。

* 記載されている値は安全な取扱いを確保するための参考情報であり、いかなる保証をなすものではありません。

* 特殊条件下で使用するときは、その場の使用環境に応じて安全対策を実施してください。